

2017(平成 29)年 3 月 21 日
第 25 回 委員会
配付資料－2：本編資料

印旛沼流域水循環健全化会議

平成 28 年度

第 25 回 委員会

本編資料

目次

1. 本日の趣旨と今年度の取組状況の確認.....	1
2. 各 WG の取組状況.....	2
3. 健全化計画改定の報告・第 2 期行動計画の承認	3
1) 印旛沼に係る湖沼水質保全計画の策定状況の報告	3
2) 第 2 期行動計画（案）のパブリックコメントの結果報告	7
3) 健全化計画、第 2 期行動計画の作成.....	8
4. 関連取組の紹介	16
5. その他	16

1. 本日の趣旨と今年度の取組状況の確認

本日の趣旨

- 健全化計画（改定案）・第2期行動計画（案）への承認
- 各WGの今年度の取組状況や次年度の取組方針の共有

第2期行動計画策定スケジュール

- 行動連携推進委員会でパブコメ案の承認（2/1）
- パブリックコメント実施（2/20～3/10）
- 行政部会でのパブコメ案の確認（2/28）
- 委員会で最終承認（本日）
- WEBページで公表

平成28年度 印旛沼流域水循環健全化会議 年間スケジュール（主要な予定のみ抜粋）

No	分類	検討項目	予定											
			2016年						2017年					
			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	会議	■委員会											● 3/21 第25回委員会 第2期計画の承認	
2		■行動連携推進委員会					● 8/30 第1回行動連携推進委員会 ・2期の検討方針と予定 ・各WGでの第2期の方針 ・年次報告書案の承認					● 2/1 行動連携推進委員会② ・第2期計画作成状況 ・各WGの取組状況		
3		■行政部会						● 9/12 回行政部会① ・第2期行動計画に係る 行政内調整					● 2/28 行政部会② ・第2期計画に係る 行政内調整	
4		■ワーキング(WG)			● 水と地域WG・ 首長会議 7/20	● 学び WG① 7/26	● 生活排水 WG① 8/4	● フェア検討会 9/6		● 水水合同会議①11/9 生活排水勉強会11/10	● 浸透担当者会議 12/12	● 浸透WG①1/18 学びWG② 1/16 生活排水WG② 1/18	● 水水合同会議② 1/30 ● 農業WG 2/27 生態系WG 2/27	● 水と地域WG 3/21
5	第2期行動計画									意見の整理と対応			パブリックコメント(2/20～3/10) 湖沼計画との整合(目標値等)	● 公表
6	イベント関連		● 5/22:成田ツデー マーチャン ケート調査	● 6/11:いんざい 環境フェスタ 6/12:いんぱふ れ愛フェスタ		● 8/2:教員 研修会	● 8/18-20: 印旛沼クリーン 大作戦 (IVUSA)	● 9/22:エコ メッセちば	● 10/29、30: 環境フェア	● 11/20: リサイクルフェア 富里市産業ま つり	● 12/11: ニューリバー ロードレース in八千代	● 1/26: 印旛沼 環境基金	● 2/1～: ちばエコ農作物 PRキャンペーン	
7	モニタリング調査等		水位計メンテナンス、降雨時調査(1回)等 調査様式の整理 → 調査実施 → 調査結果の整理											
8	(参考)湖沼計画策定		湖沼計画(骨子素案)の作成 ● 環境審議会 への諮問 7/20 ● 湖沼計画(構成案) の作成 ● 環境審議会① (中止) ● 湖沼計画(素案) の作成 ● 環境審議会② 10/28 ● 湖沼計画(素案) の作成 ● 環境審議会③ 12/15 ● 湖沼計画(素案) の作成 ● 環境審議会④ 1/30 ● パブコメ 12/27-1/23 ● 環境省・国 交省協議 2月下旬 ● 湖沼計画の 策定・公表											

2. 各 WG の取組状況

配付資料 3：各ワーキングの取組状況を参照

3. 健全化計画改定の報告・第2期行動計画の承認

1) 印旛沼に係る湖沼水質保全計画の策定状況の報告

◆計画案の概要

- ・次ページ以降を参照

◆検討状況

- ・パブリックコメントの実施

募集期間：2016(H28)年12月27日～2017(H29)年1月23日

意見提出数：4件

- ・1/30：環境審議会にてパブコメの意見を反映した計画案を審議
- ・2/8：環境審議会より計画案について適当である旨の答申
- ・今後：環境省、国交省協議を経て、年度末に計画の策定・公表を予定

印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第7期）【案】の概要

印旛沼については、昭和61年度以降6期にわたり湖沼水質保全特別措置法に基づく湖沼水質保全計画を策定し、各種対策を総合的に推進してきた。

しかし、環境基準の達成には至っておらず、引き続き、水質改善を進める必要があるため、第7期の湖沼水質保全計画を策定する。

1 長期ビジョン

「恵みの沼をふたたび」という基本理念のもと、平成42年度までに、水清く、自然の恵みにあふれ、穏やかで豊かな印旛沼流域を再生することを目指す。

2 計画期間

平成28年度から32年度までの5年間とする。

3 水質目標値

単位：mg/L

項目	平成27年度 現況	平成32年度※	
		目標	参考
COD 75%値	14	13	14
【参考】 COD 年平均值	11	10	11
全窒素 年平均值	2.4	2.3	2.4
全りん 年平均值	0.13	0.12	0.13

(注)

- ・ 目標：計画で定める各種対策を目標どおり実施した場合の数値
- ・ 参考：平成28年度以降、追加的な対策を実施しない場合の数値

4 印旛沼に係る主な水質保全対策

(1) 生活系対策

下水道の整備、高度処理型合併処理浄化槽の設置促進等により生活排水対策を推進する。

項目	指標	単位	平成 27 年度		平成 32 年度	増
下水道の整備	処理人口	千人	634	→	647	13
	普及率	%	80.9	→	82.2	1.3
高度処理型合併処理浄化槽の設置	設置基数	基	3,180	→	4,456	1,276
農業集落排水施設の整備	使用人口	人	4,365	→	4,533	168
	使用率	%	83.7	→	86.8	3.1

(2) 工場・事業場排水対策

水質汚濁防止法など法や条例による規制とともに、指導・啓発を実施する。

(3) 面源系対策

市街地対策として、雨水浸透施設の設置促進、透水性舗装の整備、調整池の改良などの流出水対策を実施する。

また、農地対策として、適正施肥や環境にやさしい農業の推進などにより、肥料投入量の削減を図る。

項目	指標	単位	平成 27 年度		平成 32 年度	増
雨水浸透施設の設置	設置基数	基	112,134	→	143,640	31,506
透水性舗装の整備	整備面積	m ²	437,398	→	560,590	123,191
貯留浸透施設の設置	設置箇所数	箇所	489	→	1,780	1,291
路面・側溝清掃	総延長	km/5 年	—	→	19,258	—
調整池の清掃	清掃汚泥量	m ³ /5 年	—	→	1,730	—
調整池の改良	改良箇所数	箇所	—	→	1	—

(4) 沼等の直接浄化対策

流入河川等においては、水路のしゅんせつ等により、沼内においては、大量に繁茂したオニビシの刈取り、植生帯の整備等により、直接浄化を図る。

①流入河川等の浄化対策

項目	指標	単位	平成 27 年度		平成 32 年度	増
多自然川づくり	整備総延長	m	11,959	→	18,977	7,018
水路しゅんせつ	しゅんせつ汚泥量	m ³ /5 年	—	→	2,256	—
水路清掃	清掃総延長	km/5 年	—	→	7.0	—

②沼の浄化対策

項目	指標	単位	平成 27 年度		平成 32 年度	増
植生帯の整備	整備箇所数	工区	—	→	1	—
オニビシの刈取り	刈取箇所数	箇所	—	→	2	—

5 調査研究・普及啓発等

(1) 調査研究の推進

沼の水質汚濁メカニズムの解明や、水質浄化技術に係る調査等を通じて、今後の効果的な対策の検討を進めるとともに、気候変動など近年の新たな課題への対応を図るため、総合的な調査研究を推進する。

(2) 沼及び流入河川の水質状況の把握

水質汚濁防止法に基づく定期的な水質の監視・測定などを通じ、沼及び流入河川の水質の状況を的確に把握する。

(3) 地域住民等に対する啓発等

①環境学習の推進

各種講演会・学習会や、自然観察会や船上見学会等の体験型学習などを実施し、沼の水質保全に関する知識の普及と意識の高揚を図る。

②地域住民等の協力

ポスターやパンフレット等による啓発活動を通じて、水質の状況や計画の趣旨等の周知を図り、地域住民等に対して各種対策への協力を求める。

6 流出水対策推進計画

沼への汚濁負荷の割合が大きく、市街地・農地等からの流出水対策を推進すべき地区として「流出水対策地区」に指定している鹿島川流域において、引き続き、重点的な対策を実施する。

2) 第2期行動計画(案)のパブリックコメントの結果報告

<パブリックコメント実施概要>

期間：2017年2月20日(月)～2017年3月10日(金)

資料の配布場所

- ・千葉県WEBサイト内

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kakan/iken/h28inbapc.html>

※いんばぬま情報広場からもリンク

- ・環境生活部水質保全課湖沼浄化対策班(県庁本庁舎3階)
- ・県土整備部河川環境課企画班(県庁中庁舎4階)

閲覧場所

- ・環境生活部水質保全課湖沼浄化対策班(県庁本庁舎3階)
- ・県土整備部河川環境課企画班(県庁中庁舎4階)
- ・県政情報コーナー(県庁本庁舎2階)
- ・千葉県文書館行政資料室
- ・各地域振興事務所
- ・各土木事務所

<パブリックコメントにおける意見>

- ・期間内に意見の提出はなかった。
- ・パブリックコメントをふまえた修正は行わない。

3) 健全化計画、第2期行動計画の作成

前回の委員会から今年度の各取組における意見等を踏まえて、健全化計画書・第2期行動計画書を作成した。

各計画書におけるポイントは以下にとおりであり、作成した計画書は配付資料4, 5を参照

健全化計画改定のポイント ※詳細は、配付資料4：健全化計画（改定案）を参照

- ・ 将来ビジョンについて議論して、イメージパースを作成した（P19~22）
- ・ 取組の体系を変更した。これまでの101対策と8つの重点対策群という体系から、目標の達成に向けた、包括的な「テーマ」を設定し、その中で具体的な取組を行動計画ごとに検討・設定する体系とした。（P27）
- ・ その中でも、特に第2期からは、各テーマの取組を推進するための戦略的な広報を新たに位置づけた。（P27）

第2期行動計画の基本理念 ※詳細は、配付資料5：第2期行動計画（案）p.8~9を参照

- ・ 第2期行動計画の推進に当たり、「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来につなぎ 水循環健全化の環を広げ、印旛沼流域創生のムーブメントにつなげる」を取組理念とする。
- ・ 第2期行動計画においては、様々な関係者が情報共有、お互いを理解、連携することで取組を推進し、印旛沼流域の水循環健全化を進めていくこととしている。

(1) 前回委員会における意見と対応状況

前回委員会（2016 年 3 月 16 日開催）における意見と対応状況を下表に整理する。

表 1 前回委員会の意見と対応状況

項目		No.	意見	対応（案）
健全化計画	基本理念	1.	中村委員：文化的サービスという表現は、文化サービスとしてはどうか。「私たちの暮らしを豊かにします」という表現は、「暮らし」ではなく「心」や「文化」といった表現がよい。	意見を踏まえて、「基本理念」、「印旛沼流域の「恵み」」における表現を修正した。
		2.	大田委員：調整サービスについて、森林や里山に加えて、田んぼについても言及していただけるとよい。	
		3.	本橋委員：印旛沼流域だけでなく、沼そのものにも言及すべきである。「印旛沼・流域」とすべきである。	
		4.	中村委員：2030 年に限定せず、「美しく豊かな印旛沼流域の人々の暮らし」といったタイトルはどうか。	
		5.	虫明委員長：2030 年に限定する必要はないという意見に同感である。「美しく豊かな」といった形容詞でもよい。	
	その他	6.	佐倉市：沼のほとりに皆さんの研究成果等を展示して、成田から沼に立ち寄っていただけるような場所があるとよい。	かわまちづくり計画など水と地域 WG 等の取組を通して、水辺の利活用ニーズを高める中で進めていく。
第 2 期行動計画	推進テーマ	7.	千代委員：「水環境」ではなく「水辺環境」としてはどうか。判断はお任せする。	沼内の対策も包含するテーマであり、「水環境」とした。
		8.	虫明委員長：14、15 ページの表について、実施主体がないように誤解されないよう、カッコ書きで実施主体を記載してはどうか。	表「強化対策および推進テーマ」の注釈に説明を追加した。
		9.	原委員：市民との連携・協働について、市民の立場で考えると、ステークホルダーの関係性を図示していただけると、自分がどのような立ち位置にいるのか、イメージできてよい。	6 者連携の考え方を紹介することとした。
		10.	原委員：91 ページの取組みの関連主体を示した表については、市民にできることに丸印がついていないので、精査してほしい。	全テーマの「取組の役割分担」の記載内容を修正した。
		11.	虫明委員長：61 ページの役割分担表についても、研究者の位置づけがなく、精査する必要がある。	
	評価指標	12.	高村委員：目標評価指標については、客観的に評価できる指標が必要である。りんを評価指標に加えてはどうか。印旛沼の場合は、達成度を評価する指標として COD より優れている。	りんについては、今後新たな対策も含めて、第 2 期で実施していく水質改善対策を検討していくため、その対策の内容や期待される効果が明らかになった段階で改めて検討していく。
		13.	小倉委員：りんの指標を位置付けるべきだと思う。環境省の議論でも、COD だけに依らない評価が必要だという議論がある中で、COD だけにこだわる必要はない。	

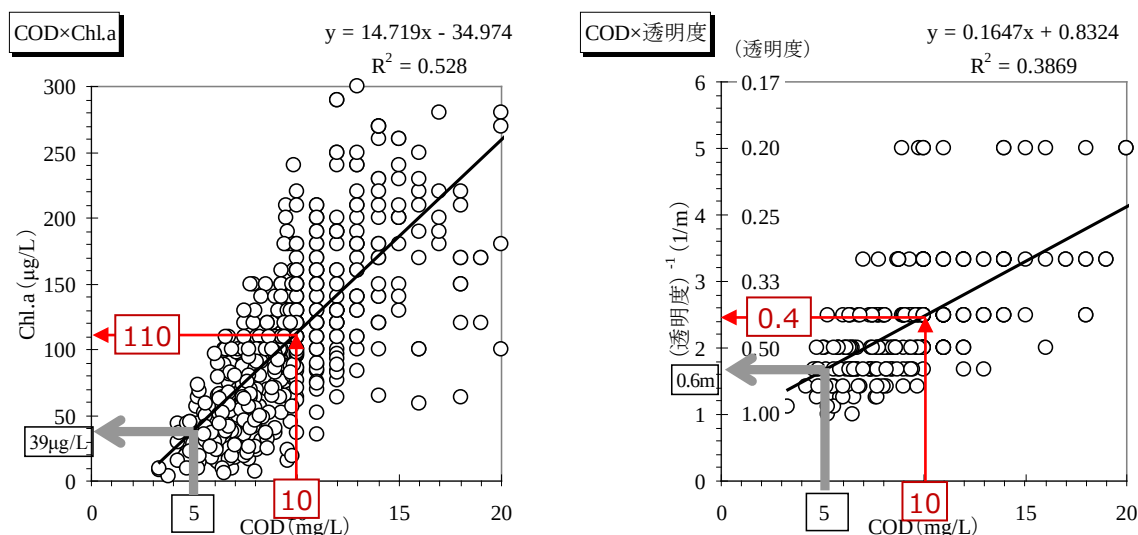
項目	No. 意見	対応（案）
	14. 千代委員：「沿岸透明度」という言葉を用いてはどうか。 15. 本橋委員：環境省の「沿岸透明度」の考え方が、印旛沼にもあてはまるのかどうかは疑問である。	印旛沼の湖岸では水深が浅く透明度の測定に適した場所が少なく、環境省の定める沿岸透明度の考え方はなじまない。当面は公共用水域水質測定で実施している透明度の値を用いておきながら、第2期中に植生帯整備箇所での観測の可能性などを検討していく。
	16. 高村委員：「被害を軽減する」といった場合の「被害」を定量化することが難しい。 17. 小倉委員：同感である。これまで駆除頭数と面積で評価してきたので、これを踏襲すればよい。 18. 虫明委員長：外来生物を減らすことが本質であり、増えすぎた結果としての治水被害を指標にするのは、趣旨が異なるのではないか。ただし、当面の間、取組むインセンティブとして、水害リスクの軽減を位置づけることはよい。	生態系WGでの検討結果を長谷川座長より、行動連携推進委員会で報告し、議論の結果現行のままとした。
	19. 本橋委員：健全化会議にとって有用な調査をしている団体等については、金銭的な支援をするといったことも考えられる。 20. 虫明委員長：環境基金との連携のもとに検討できるとよい。	34の対策群にも、31の経済的措置の検討として位置づけている。環境基金との連携のもとに検討していく。

(2) 湖沼水質保全計画の検討を受けた変更点

湖沼水質保全計画の検討を受け変更した点は、以下の通りである。

表 2 第 2 期行動計画（湖沼計画との整合）に関する変更点

該当箇所	変更点
推進テーマ「雨水の貯留・浸透機能を保全・再生します」の取組指標の現状・目標値	・ P22：第 1 期行動計画と同様な目標を設定していたが、第 7 期湖沼水質保全計画において、具体的な積み上げ目標を設定したため、両計画の整合をはかるために目標値を変更した。
推進テーマ「家庭から出る水の汚れを減らします」の取組指標の現状・目標値	・ P27：第 7 期湖沼水質保全計画の値が確定するまでは値を入れていなかったが、湖沼計画の検討成果を受けて、目標値を設定した。
目標水質	P101 ・ COD の目標値を 10mg/L とした。 ⇒湖沼計画の検討成果より設定 ・ クロロフィル a の目標値を 110μg/L ・ 透明度の目標値を 0.4m とした。 ⇒COD の目標値から下図の相関を用いて算出



※上水道取水口下（西印旛沼）の 1967～2007 年度全測定値から相関を計算（透明度は 1998 年度以降のデータ）
 ※健全化計画策定時の相関関係式

図 3.1 水質項目間の相関（左：COD×Chl.a、右：COD×透明度）

(3) 今年度の各 WG 検討に基づく 9 つの推進テーマに関する変更点

今年度の各ワーキングにおける検討をふまえ、第 2 期行動計画における 9 つの推進テーマに関する記述について、下表の点を変更した。

表 3 第 2 期行動計画（9 つの推進テーマ）に関する変更点

テーマ	変更点
①雨水の貯留・浸透機能を保全・再生します（浸透 WG）	・変更なし
②家庭から出る水の汚れを減らします（生活排水 WG）	・ P24：汚濁負荷量の推移グラフの最新年度を 2013 年度から 2015 年度に更新した。 ・ P24・25：第 1 期での取組の実績の表現方法の見直しを行った。 ・ P27：取組の役割分担の見直しを行った。
③環境にやさしい農業を推進します（農業 WG）	・ P32：取組指標の現状値をアンケートし、把握したため、その結果を追記した。
④川や沼の水環境を改善します（水水合同 WG）	・ P38：今年度の水水合同会議の議論を踏まえて、<u>第 2 期における方針、主な取組内容の見直しを行った。</u> ・ P39：上記に合わせて取組指標と目標値を変更した。
⑤ふるさとの生き物をはぐくみます（生態系 WG）	・ P43：取組指標の現状値を把握したため、追記した。
⑥水害からまちや交通機関から守ります	・変更なし
⑦水辺を活かした地域づくりを推進します（水と地域 NTWG）	・ P55：八千代市が新たにかわまちづくり計画に加わったことを踏まえて、 <u>記載内容の変更を行った。</u>
⑧環境学習を活発にします（学び WG）	・ P56、57：モデル校の位置づけの変更に伴い、 <u>課題、方針、主な取組等の見直しを行った。</u>
⑨共感を広げ、多様な主体との連携・協働を推進します（健全化会議）	・変更なし

(4) その他変更点

その他、委員や関係各課からの指摘等をふまえた変更した点を下表に整理した。

表 4 第 2 期行動計画書（9 つの推進テーマ以外）の変更点

No	変更箇所※		指摘内容	変更点	意見者
1	1	文章	下線の通り修正する 「さらに、計画の実効性を高めるため、県・流域市町の総合計画や地方創生総合戦略、環境基本計画、印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第 7 期）等の関連計画との整合性を確保します。」	指摘の通り修正	事務局
2	4・41	文章中	P5 ではナガエツルノゲイトウの効果的な駆除を始めたとなっているが、P42 ではナガエツルノゲイトウの効果的・効率的な駆除方法、地域協働を図りますとなっている。効果的な方法としてすでに確立されているかが疑問である。	P5 では第 1 期行動計画の達成状況、P42 はその状況を踏まえた第 2 期における主な取組であり、期間中に効果的な方法を確立していくため、表記は修正しない。指摘者に個別に説明し、了解を得た。	印西市 都市建設部 土木管理課
3	10	文章	湖沼計画との連携を 11 ページに追記する	(3) 関連する計画との連携を追加	岩見委員
4	11	表	分野ごとの取組を推進するテーマ →分野間の取組を推進するテーマ	指摘の通り修正	岩見委員
5	16	図・文章中	9 つの推進テーマ及び強化対策、それらの推進を支援する体制図の修正	①～⑧の後ろに輪を描いた。文章中に①～⑧の推進テーマが連携することを記載した。	岩見委員
6	23	グラフ	汚濁負荷量の推移グラフの最新年度を 2013 年度から 2015 年度に更新	指摘の通り修正	事務局
7	26	表	「取組の役割分担」の「流域市町」の部分で、農業集落排水施設に関する記載がなく、下水道と浄化槽しか排水処理方法がないように見えてしまうため、文章を追加したほうが良い。	下水道整備区域外に、農業集落排水施設に関する記述を追加する	千葉市 環境局 環境保全部 環境保全課
8	31	表	取組指標の現状を記載する	取組指標の現状と把握・算出方法を記載	事務局
9	32	図	「印旛沼の水辺 今むかし」の「現在」の図と説明中を ブラックバス→チャネルキャットフィッシュに修正	ブラックバス⇒チャネルキャットフィッシュに修正	千葉県 水産総合研究センター 内水面水産研究所
10	45	文章中	北アメリカから中米原産で、数年前まで →北アメリカから中米原産で、かつて 高崎川で多数発見されています →高崎川で繁殖が確認されています	指摘の通り修正	千葉県 生物多様性センター

No	変更箇所※		指摘内容	変更点	意見者
11	68	文章中	※下線の通り修正する 地下水は、水循環系の中で、降水と地表水を連結し緩やかに流動する特性を持っており、印旛沼の水量確保と水質の浄化という点で、重要な役割を果たしています。水道用・工業用・農業用等の重要な水源でもある地下水ですが、無秩序な地下水の使用を避け、地下水を将来的に持続可能な資源として利用していくことが必要です。湧水・地下水の保全・活用に向けて、湧水調査および地下水利用調査やその情報発信に努めます。また、千葉県環境保全条例に基づき、地下水の採取規制を行うと同時に、適切な利用の推進に取組みます。	指摘の通り修正	近藤委員
12	68	文章中	※下線の通り修正する ＜主な取組＞ ●湧水調査・地下水利用調査・情報共有 流域の地下水利用や湧水箇所の調査を実施して、地下水・湧水の保全を図るとともに、湧水箇所マップの作成などによる情報の共有を行います。	指摘の通り修正	近藤委員
13	68	文章中	●地下水の適正利用の推進 文章中の表現を修正する	指摘の通り修正	近藤委員
14	68	表	＜取組に関連する主体＞に「地下水利用調査」を追加する。全ての主体が関連する。	指摘の通り修正	近藤委員
15	83	文章中	コアエリア、バッファゾーン、コリドー等のマップの作成は出来ないか。目標として検討していただきたい。	生態系 WG の中の検討項目として、意見を紹介して取り込むように働きかける。	近藤委員
16	84	文章中	「印旛沼および流域河川の上流に位置する谷津や里山は、地下水涵養や・・・」の表現の見直し	「地下水涵養」を削除する	近藤委員
17	87	表	＜取組に関連する主体＞の「対策」欄の文字の大きさの統一	指摘の通り修正	八千代市 都市整備部
18	105	表	2030 年度における清澄性目標値 0.2⇒1.0	0.2⇒1.0mに修正	千葉県 水産総合研究センター 内水面水産研究所
19	105	表の中	透明度の 2030 年度目標値は、1.0m程度ではないか。	0.2⇒1.0mに修正	千葉県 総合企画部 水政課
20	109	表	窒素類の 2030 年度目標値は 10mg/L 以下ではないか。	10mg/L を超える⇒10mg/L 以下に修正	千葉県 総合企画部 水政課
21	110	表	外来種（特に特定外来生物）が駆除されるとあるが、根絶させると捉えて良いのか。またそれは実現可能な目標なのか。	根絶は想定していない。 指摘者に個別に説明し、了解を得た。	印西市 都市建設部 土木管理課

No	変更箇所※		指摘内容	変更点	意見者
22	115	表	雨水浸透枘マスの設置基数 86%が P113 の数値と違う。	P115 85%⇒86%に修正	千葉県 総合企画部 水政課
23	112	表	ちばエコ農業による耕作面積 0.5ha の増加が P120 のグラフから読み取れない。H20 と H27 は同値ではないのか。	増加量を耕作面積 0ha に修正 p120 のグラフの表記を合わせるために、表中の耕作面積を小数点 下一桁まで表記	千葉県 総合企画部 水政課
24	112	表	特定外来生物の駆除 達成度合に記載の H20 年からのカミツキガメ駆除頭数は P121 のグラフのとおり 2973 頭ではないのか。	No27. 千葉市 自然保護課の回答に併せて修正	千葉県 総合企画部 水政課
25	113 ～ 122	グラフ	市町ごとの目標値や進捗率の算出方法が不明確であるため、説明を追加した方がよい。	各市町の目標値は、第 1 期行動計画の中間レビュー時に整理した値であり、各市町の目標値は各市町と共有していないため、市町の進捗率のグラフは掲載しない。	千葉市 環境局 環境保全部 環境保全課
26	120	グラフ	「進捗率」ではなく、取組指標どおり「下水道普及率」のグラフに修正したほうが良い。	他指標との整合性を取るため、進捗率のグラフのままとする。 指摘者に個別に説明し、了解を得た。	船橋市 建設局 下水道部
27	121 ～ 122	文章中	りん除去型で記載しない理由を書かなくてよいのか。	理由を記載する	千葉県 総合企画部 水政課
28	126	グラフ	カミツキガメの駆除頭数について修正する。 平成 19 年度 (2007) :303 平成 20 年度 (2008) :234 平成 21 年度 (2009) :289 平成 22 年度 (2010) :309 平成 23 年度 (2011) :577 平成 24 年度 (2012) :372 平成 25 年度 (2013) :623 平成 26 年度 (2014) :895 平成 27 年度 (2015) :959 上記変更に伴って、解説文の変更もすること。	指摘の通り修正	千葉県 環境生活部 自然保護課

※ページ番号は、第 24 回健全化委員会（2016 年 3 月 16 日開催）時点のもの。

表 5 健全化計画の変更点

No	変更箇所※	指摘内容	変更点	意見者
1	27	分野ごとの取組を推進するテーマ →分野間の取組を推進するテーマ	分野間の取組を推進するテーマ	岩見委員
2	資-23	「印旛沼流域水循環健全化会議」の現体制の更新（2016 年 3 月時点）	「印旛沼流域水循環健全化会議」の現体制を更新（2016 年 3 月時点）	事務局
3	資-24	印旛沼流域水循環健全化会議 委員名簿の更新（2016 年 3 月時点）	印旛沼流域水循環健全化会議 委員名簿を更新（2016 年 3 月時点）	事務局
4	資-25～33	用語集の見直し	指摘を踏まえ、用語集全体の見直しを行う	中村委員

※ページ番号は、第 24 回健全化委員会（2016 年 3 月 16 日開催）時点のもの。

4. 関連取組の紹介

水循環健全化に関連した取組として、流域では様々な活動が実施されている。

今回は、その中から、以下の4つの取組について、各取組主体からその内容をご発表いただく。

取組の詳細は、配付資料7を参照

<関連取組>

- ・印旛沼クリーン大作戦

発表者：特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 高井氏、中山氏、室町氏

- ・ナガエツルノゲイトウの堆肥化研究

発表者：国立研究開発法人 土木研究所 大寄研究員

- ・印旛沼流域環境・体験フェア 市民企画部会

発表者：市民企画部会長 高橋氏

- ・エコにんじんキャンペーン

発表者：JA 富里市 橋本課長

5. その他

その他、以下の項目について

- ・第6回印旛沼・流域再生大賞の募集

配付資料8：第6回印旛沼・流域再生大賞の募集を参照

- ・国の水循環施策の動向について

配付資料9：国の水循環施策の動向についてを参照